

その一

【原文】

考天地陰陽萬物、上下相愛相治、立功成名、使心治一家、使人不復相憎惡、常樂合心同志。令太和之氣日自出、而大興平、六極同心、八方同計。所治者若人意、莫不皆響應而悅者。本天地元氣、合陰陽之位、邪惡默然消去、乖逆者皆順、明大靈之至道、神祇所好愛。

吾乃上爲皇天陳道德、下爲山川別度數、中爲帝王設法度。中賢得以生善意、因以爲解除天地大咎怨、使帝王不復愁苦、人民相愛、萬物各得其所、自有天法、常格在不匿。

【書き下し】

天地・陰陽・萬物を考すれば、上下を相愛し相治み、功を立て、名を成り、心をもつて一家を治せしむ、人を復た相憎惡せず、常に心を合して志を同じて樂みをせしむ。太和の氣の日を自ら出で、而して大に平を興し、六極が心を同じくし、八方は計を同じくせしむ。治む所の者は人の意に若い、皆に響應して悦び者せざるなし。天地が元氣に本じき、陰陽の位を合し、邪惡を默然し消去せしむ、乖逆は皆順い、大靈の至道を明らかにして、神祇の好愛所なり。

吾乃ち上に爲て皇天に道德を陳び、下に爲て山川の度數を別り、中に爲て帝王に法度を設け、中賢はもつて善意の生うを得る。因てもつて天地の大咎怨を解除となり、帝王は復た愁苦させず、人民は相愛し、萬物は各其の所を得り、自ら有る天法は、常格な匿さざり在りをせしむ。

【日本語訳】

天地、陰陽と万物の働きを検討してみれば、お互いの愛の元でお互いを整えて、「それぞれ」の機能を活かして、立場が確実になっている。心をもつて一家を導きさせ、人々を再びに憎みささない、常に考え方を一致して、同じ志で楽しむ。大和の氣をもたらず太陽の動きが毎日みずから上るようにして「方向性がばらばらになっていゝ六極は一つの目的に統一されて、八方は同じ計画で進む。支配者は人々の意向に従い、至る所に喜びの響きがわたる。天地の元氣に基づいて、陰陽のバランスのもとで、邪を沈黙させ、消えさせ、逆らうものを従いさせ、大靈なる最高の道を明らかにして、天と地の神々が皆多に愛される。

私はそうしてまずは上に登って、皇天において道德を設置し、下において山と川の形を作り上げて、さらに間において君主の法律制度を設ける。才能のある人々がそれによって善意の意識を生み出させ、これを以って天と地の大きい過ちと恨みを解除し、君主を再び苦しませず、万物をそれぞれ然るべく場所に辿り着きさせて、永遠に変わらない天の働きは自ら常に明らかかな状態にさせる。

【註】

【成名】《易·繫辭下》：『善不積，不足以成名。』  
《論語·子罕》：『達巷黨人曰：『大哉孔子，博學而無所成名。』朱熹集注引尹焞曰：『達巷黨人見孔子之大，意其所學者博，而惜其不以一善得名於世。蓋慕聖人而不知者也。』』

【一家】《禮記·大學》：『一家仁，一國興仁；一家讓，一國興讓；一人貪戾，一國作亂。』鄭玄注：『一家、一人，謂人君也。』

【憎惡】《荀子·大略》：『故塞而避所短，移而從所仕，疏知而不法，察辨而操僻，勇果而亡禮，君子之所憎惡也。』

【同志】《國語·晉語四》：『同德則同心，同心則同志。』

【太和之氣】《太平經鈔》：『皆知重其命，養其軀，即知尊其上，愛其下，樂生惡死，三氣以悅喜，共為太和，乃應並出也。』（第二卷七葉表）

宜當相通辭語，并力共憂，則三氣合并為太和也。太和即出太平之氣。斷絕此三氣，一氣絕不達，太和不至，太平不出。（第二卷八葉裏）

【興平】《漢紀·昭帝紀》：『王主能致興平，治主能行其政，存主能保其國。』  
《太平經》6.1《來善集三道文書訣一百二十七》：『令夫太陽興平氣盛出，德君當治，天下太平，莫不各得其所者。』（86, 14b）

【六極】《莊子·應帝王》：『予方將與造物者為人，厭，則又乘夫莽眇之鳥，以出六極之外，而遊無何有之鄉，以處曠垠之野。』

【同心】《孟子·告子上》：『欲貴者，人之同心也。人人有貴於己者，弗思耳。』

【響應】《章華賦》：『舞無常態，鼓無定節，尋聲響應，修短靡跌。』

【邪惡】《尹文子·大道下》：『順人之嗜好而不敢逆，納人於邪惡而求其利。』

【默然】《戰國策·齊策四（152 齊宣王見顏觸）》：『宣王默然不說。』

【消去】《論衡·遭虎》：『夫吉凶同占，遷免一驗，俱象空亡，精氣消去也。』

【至道】《莊子·在宥》：『來！吾語女至道。至道之精，窈窈冥冥；至道之極，昏昏默默。』

【神祇所好愛】《書·湯誥》：『爾萬方百姓，罹其凶害，弗忍荼毒，並告無辜于上下神祇。』孔傳：『並告無罪稱冤訴天地。』

《太平經》6.23《為道敗成戒第一百五十七》：『無功之人，天地所忽，神靈所不好愛也。』

【度數】《韓非子》42 問田第四十二：『今先生立法術，設度數，臣竊以為危於身而殆於軀。』

《史記・夏本紀第二》 帝拜曰：「然，往欽哉！」於是天下皆宗禹之明度數聲樂，為山川神主。

【帝王】 《莊子・天道》：『夫帝王之德，以天地為宗。以道德為主，以無為為常。』

【法度】 《太平經》320 《案書明刑德法第六十》：念天之行，乃可以傳天之教，以示勅愚人，以助帝王為法度也。

【中賢】 《太平經》54 《致善除邪令人受道戒文第一百八》：然有天命者，可學之必得大度，中賢學之，亦可得大壽，下愚為之，可得小壽。

【咎怨】 《太平經》734 《病歸天有費訣第二百一》：邪神稱正神狂行斬殺，不得其人而殺之。咎怨訟上至天，天君為理之。

【天法】 《大戴禮記・盛德》：『故明堂，天法也，禮度，德法也，所以御民之嗜慾好惡，以慎天法，以成德法也。』

その二

【原文】

古者聖帝明王、重大臣、愛處士、利人民、不害傷；臣亦忠信不欺君、故理若神。故賢父常思安其子、子常思安樂其父、二人並力同心、家無不成者；如不並力同心、家道亂矣、失其職事、空虛貧極、因爭鬥分別而去、反還相賊害親。父子分身血氣而生、肢體相屬如此、況聚天下異姓之士為君師父乎？故聖人見微知著、故重戒慎之。

夫師、陽也、愛其弟子、導教以善道、使知重天愛地、尊上利下。弟子敬事其師、順勤忠信不欺。二人並力同心、圖畫古今舊法度、行聖人之言、明天地部界分理、萬物使各得其所、積賢不止、因為帝王良輔、相與合策、共理致太平。如不並力同計、不以要道相傳、反欲浮華外言、更相欺殆、逆天分理、亂聖人之辭、六極不分明、為天下大災。帝王師之、失其理法、反與天地為大仇、不得神明意、天下大害者也。

【書き下し】

古の聖帝と明王は大臣を重じ、處士を愛し、人民に利して、害傷をしからず、臣は亦忠信にして、君を欺せず、故に理は神に若う。故に賢父は常に其子の安を思い、子も常に其父の安樂を思い、二人は力を并て心を同にして、家は成ず者なし。如し力を並ず、心を同しからずんば、家の道は亂れ、其の職事を失い、空虛にして貧いの極め、困りて争鬥して、分別して去て、反還して相い賊い、親に害す。父子は分身して血氣して生う。肢が體に相い屬の如の此し、況天下の異姓の士は君師父の爲に聚む、故に聖人は微を見著を知り、故に之を戒慎す重じる。

夫師、陽也、其の弟子を愛し、教を以って善道へ導き、天の重じ、地の愛を知り、上を尊、下を利すをせしむ。弟子は其の師を敬事し、忠信して欺せず、勤に順う。二人は力を并せて心を同じにして、古今の舊法度を圖畫し、聖人の言を行い、天地部界の分理を明にして、萬物を各其所を得り、止らずに賢を積せしむ。因て帝王の

良輔と爲り、相い與に合策し、共に理を太平に致せしむ。如し同計に力并ざれば、要道を以って相い傳せざれば、反って浮華の外言を欲すし、更に相い欺殆し、天の分理に逆らい、聖人の辭を亂し、六極を分明せず、天下に大災と爲す。帝王も之に師い、其の理法を失い、反して天と地に大仇すと爲り、神明の意を得せず、天下の大害者也。

#### 【日本語訳】

古の聖帝と賢明な王様は大臣を重視して、学者を愛し、人々の利益を図りて、害を浸けない姿勢を持ち；大臣もまた君主を尊重して、騙す事はなかった。そのためは国の治めることは神に従う。また賢い父が常に子供の喜びと安全を考えているのようには、その子供も常に父の安楽に心を掛けていた。二人の力合わせと心使えではじめて家が成り立つ。もしその力合わせと心使えなければ、家そのものが崩壊してしまつて、その職業を失い、極端な貧困に落ち、喧嘩して別れて、去って行き、転じてお互いに殺したり、虐げたりことまで起こる。子供は父と分身して精力を生みだして、その手足は体に付く用になるが、豈天下の異なる部族の男達は君主、指導者、父親になるだろうか？ゆえに聖人は物事の一部だけを見てもすべてを知り、氣をはりつめて用心することを重んじる。

先生という役は光を発する、その弟子を愛して、教えを以って良い方向に導き、天を尊重して地を愛することを知らせて、君主を尊敬し、国民の利益に務めさせる。弟子もまたその先生の教えに謹んで従い、忠実に務めを全うし、騙す事はしない。二人は力を合わせて、心を揃えれば、古今の既存の法律を図に描き、聖人の言葉を実現して、天と地の部分への分け方を理解し、万物を皆それぞれの然るべき場所を得るに助け上げて、止まらずに良い経験を蓄積して、よりに「弟子が」君主の良い手伝いになれる。共に計画を練て、自然の原理に至って太平を実現できる。もし力を同じ計画に合わせなかつたり、教えの要をお互いに伝えなかつたり、逆にそれ以外の派手な言葉を実現しようとする場合は、更にお互いに潰け込もうとし、天と地の自然の分け方に逆らい、聖人の言葉を乱れてしまい、六極は明らかではなくなつてしまい、その結果としては天下に大きな災害がもたらす。君主もこれに習えば、正当な政治を失い、天と地が大きな敵となり、神の支えを得なくなり、天下に大きな災いが起こる。

#### 【註】

【聖帝明王】 《禮記<sup>29</sup> 仲尼燕居》：立而無序，則亂於位也。昔聖帝、明王、諸侯、辨貴賤、長幼、遠近、男女、外内，莫敢相踰越，皆由此塗出也。

【處士】 《孟子・滕文公下》：『聖王不作，諸侯放恣，處士橫議，楊朱、墨翟之言盈<sup>30</sup>職事。』天<sup>31</sup>左<sup>32</sup>搏<sup>33</sup>言<sup>34</sup>定<sup>35</sup>不<sup>36</sup>綱<sup>37</sup>榘<sup>38</sup>，則歸<sup>39</sup>變<sup>40</sup>節<sup>41</sup>其宗氏，輯<sup>42</sup>其分族，將其醜類，以法則周公，用即命于周，是使之職事于魯，以昭周公之明德。』

【家道】 《易・家人》：『父父，子子，兄兄，弟弟，夫夫，婦婦而家道正。』

【空虛】《孟子》14.12 孟子曰：「不信仁賢，則國空虛；無禮義，則上下亂；無政事，則財用不足。」

《呂氏春秋》18 審應覽第六：「圍邯鄲二年而弗能取，士民罷潞，國家空虛，天下之兵四至。」

【貧極】《太平經》31 《分別貧富法第四十一》：「此以天為父，以地為母，此父母貧極，則子愁貧矣。與王治相應。」

《太平經鈔》：「因而天終，獨上感動皇天，萬物無可收得，則國家為其貧極，食不重味，宗廟飢渴。」（四葉表）

【分身】《太平經鈔》：「夫人生受命之時，與天地分身，抱元氣於自然，不飲不食，呼吸陰陽氣而活，不知飢渴。久久離神道，遠漸失根本，後生者復不知真道。」（卷三一九葉表）

【見微知著】《韓非子·說林上》：「聖人見微以知萌，見端以知末，故見象箸而怖，知天下不足也。」

《太平經鈔》：「是故古者聖賢終日思，唯不敢懈怠，失毛髮之間，見微知著，不失皇天心，故能存其身，安其民，養萬物。」（卷三、二七葉裏）

《太平經鈔》：「古者帝王，見微知著，因任行其事，順其炁，遂得天心意。」（卷三一五葉裏）

【戒慎】《禮記》32 中庸：「是故君子戒慎乎其所不睹，恐懼乎其所不聞。」

【忠信】《易·乾》：「君子進德脩業，忠信所以進德也。」

【部界】《太平經》7.19 《七十二色死尸誠第一百八十六》：「皆有根本，上下周徧。山海諸通之水，各有部界，各各欲得性善不逆之人以為戶民。陸地之神，亦欲得善人。」

【良輔】《後漢書·梁商傳》：「商自以戚屬居大位，每存謙柔，虛己進賢，辟漢陽巨覽、上黨陳龜為掾屬，李固、周舉為從事中郎，於是京師翕然，稱為良輔。」

【要道】《孝經·開宗明義》：「先王有至德要道，以順天下，民用和睦，上下無怨。」

【浮華】《論衡·自紀》：「其文盛，其辯爭，浮華虛偽之語，莫不澄定。」